

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	英語	年次	1年次
講座名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3単位
授業形式・概要等	英語の学習を通じて、将来大切となる「積極的にコミュニケーションをとろうとする態度」を育成します。		
到達目標	多くの支援を活用しながら英語を用いて情報や考えを的確に理解したり伝えたりする基礎的な力を身につけます。また、各自のレベルに応じた実用英語技能検定（英検）の合格も目指します。卒業までに英検2級の取得を目指しましょう。		
使用教材	教科書：MY WAY English Communication I New Edition（三省堂） クラウン チャンクで英単語 Basic 第2版 （A4バインダーファイルがあると良い。）		
学習のアドバイス 注意事項等	・「理解→内在化→発信」の順で学習を進めます。そのためには、音読が非常に重要です。音読を通して内容を理解します(理解)。何度も本文や例文を音読し、頭の中に英語を取り込みます(内在化)。そして、習った表現や語彙を用いて実際のコミュニケーションの場で応用します(発信)。 ・週に1回程度、英単語テストを行います。英語が使えるようになるためには、英単語の意味を覚えるだけでなく、その単語の使い方が重要です。その単語を含むかたまりの句(チャンク)を何度も練習し、実際のコミュニケーションの場で使える力を身につけます。 ・考査がないため、レッスンの終わりごとに各観点に応じたパフォーマンス・テスト等が多くあります。1年間かけて「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと(発表)」「話すこと(やりとり)」の5領域をバランス良く評価していきます。 ・ペアやグループの活動が非常に多くなります。間違っても良いので、協力して積極的に参加することが大切です。 ・本文や例文を大量に何度も音読する習慣をつけましょう。日本語の文を見て、何も見ずに英文に直せるようになるまで続けることが理想的です。各レッスンのページには、音声が開けるQRコードが付いています。正しい音で発音出来るようになるために、必ず活用してください。		
クラスコード	jwanhdkb		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	英語やその運用についての知識を身につけるとともに、背景にある文化などを理解している。	・小テスト（単語テスト、教科書内での単語・文法・会話表現等の確認テスト、音読テスト等）による。
②思考・判断・表現	英語で話したり書いたりし、情報や考えなどを適切に伝えている。 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	・パフォーマンス評価（インタビュー、プレゼンテーション、ディベート、英作文等）による。
③主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動や課題に取り組んでいる。	・ペアワーク、グループワーク等の取り組み状況、単語テストへの取り組み状況、振り返りシートの提出状況等による。

学習計画

W（書くこと）R（読むこと）L（聞くこと）I（やりとり）P（発表）

※横の番号は表面、評価の観点①～③に対応する。★は単元末テスト実施時期を表すが、あくまで目安で予定よりも前後する。

学習内容（単元名）	時数	評価の規準と観点
1. Fonts and Communication	20	(W) 駅以外でエキマトペが必要とされる場所やその理由について、書いて伝えるために必要となる、基本的な語句や文を理解している。また、簡潔に書いて伝える技能を身に付けている。① ★5月下旬
2. Beavers: Eco-Friendly Animals		(I) 学食のメニューのデザインに使うフォントについて、基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。② ★5月下旬
		(L) 絶滅の危機に瀕している動物についての対話を、概要や要点、必要な情報を、ワークシートを参考にしながら主体的に聞き取って捉えようとしている。③ ★6月下旬

3. Sending Canned Mackerel to Space	22	(R) 代替食品について理解を深めるために、代替食品について書かれた文章や対話分を読み、書き手や話し手の意図を把握しようとし、概要や要点を捉えようとしている。③ ★8月下旬
4. Messages from Winnie-the-Pooh		(P) 留学生に紹介したい日本の物語について、話して伝えるために必要となる、基本的な語句や文を理解している。また、話して伝える技能を身に付けている。① ★9月下旬
5. Endangered Languages	22	(W) ムーミンシリーズのキャラクターの好みについて、読んで得られた情報などを活用しながら、理由や根拠とともに書いて伝えている。② ★9月下旬
6. Musicians of the Metro		(I) 英語以外に学びたい言語について、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしたりしている。③ ★10月下旬 (L) 文化祭でどのようなパフォーマンスをしてみたいかについて、対話を聞き取る技能を身に付けている。① ★11月下旬
7. A Wheelchair Traveler	22	(P) 文化祭でどのようなパフォーマンスをしてみたいかについて、パフォーマンスの内容やどのように観客を楽しませるかなど、グループで話し合った内容を基に話して伝えようとしている。③ ★11月下旬
8. The Progress of Keys		(L) 海外からの旅行者に勧める日本の都市について話している対話を聞き取る技能を身に付けている。① ★冬期休業前に実施 (P) 海外からの旅行者に勧めるために、勧めたい日本の都市について、訪れるべき場所や特徴、名物などを、グループで話し合った内容を基に話して伝えようとしている。③ ★冬期休業前に実施 (I) あったらよいと思う未来の技術や製品を紹介するために、紹介したい未来の技術や製品について、その説明や利点などを話し、相手の質問に答えている②。 ★1月下旬
9. Kadono Eiko and the Power of Imagination	12	(R) 文章を読み取るために必要となる、SV0102 (02=how to ~)、SV0+to不定詞、SVOC (C=動詞の原形、現在分詞) を用いた文構造について理解している。また、角野栄子さんの作品と想像力の関係についての講演のスク립トを、読み取る技能を身に付けている。① ★2月下旬
10. Toward a Sustainable World		(W) 物語によって心を動かされた経験について、読んで得られた情報などを活用しながら、理由や根拠とともに主体的に書いて伝えようとしている。③ ★2月下旬 (P) SDGs の目標に関連した課題について調査し、自分たちにできることをグループで話し合った内容をプレゼンテーションを通して伝えている。② ★年度末
総予定時間数	105	

上記年間学習計画にあるとおり、各領域・各観点のパフォーマンステストによる評価回数は以下を目安として、通年でバランス良く評価できるよう取り組む。

	L	R	I	P	W	合計 (回)
①知識・技能	2	1	0	1	1	5
②思考判断表現	0	0	2	1	1	5
③主学態	1	1	1	2	1	5
合計 (回)	3	2	3	4	3	

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	英語	年次	1 年次
講座名	論理・表現 I	単位数	2 単位
授業形式・概要等	英語コミュニケーション I で学修する内容も踏まえ、特に話すこと（アウトプット）に重点を置く科目です。ペアやグループで活動することが多く、自分の考えや意見を伝え合い、話し合う力が求められます。主にペアやグループでのやりとりや、全体でのプレゼンテーション、ディスカッションができることが求められます。そのために、まずは基本的な文法知識をしっかりとつけていくことを目指します。		
到達目標	日常的な話題や社会的な話題について、多くの支援を活用しながら英語を用いて気持ちや意見などを論理構成や展開を工夫して話せるようになる力を身につけます。話す形式として、主にスピーチやプレゼンテーションを論理構成に気をつけながらできることを目指します。場合によっては書いて伝えることもあります。		
使用教材	教科書：MY WAY Logic and Expression I 副教材：MY WAY Logic and Expression I WORK BOOK		
学習のアドバイス 注意事項等	・英語学習は「理解→内在化→発信」の順で学習を進めます。そのためには、音読が非常に重要です。音読を通して内容を理解します(理解)。何度も本文や例文を音読し、頭の中に英語を取り込みます(内在化)。そして、習った表現や語彙を用いて実際のコミュニケーションの場で応用します(発信)。 ・考査がないため、各単元末に理解度チェックを測る小テストが多くあります。 ・ペアやグループの活動が多くなります。間違っても良いので、協力して積極的に参加することが大切です。 ・復習では、ノートやワークシートの見直しはもちろん、教科書の音読もしましょう。 ・本文や例文を大量に何度も音読する習慣をつけましょう。日本語の文を見て、何も見ずに英文に直せるようになるまで続けることが理想的です。		
クラスコード	bc54bhq7		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	英語やその運用についての知識を身につけるとともに、背景にある文化などを理解している。	・小テスト（毎単元末に実施する文法理解テスト、動詞の活用表試験等による）
②思考・判断・表現	英語で話したり書いたりし、情報や考えなどを適切に伝えている。 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	・パフォーマンス評価（適宜実施するインタビュー、プレゼンテーション、ライティング等による）
③主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動や課題に取り組んでいる。	・英コミ I での取り組み状況も踏まえ、ペアワーク、グループワーク等の取り組み、単語テストへの取り組み、振り返りシートの提出状況等による。

学習計画

学習内容（単元名）	時数	学習と評価のポイント（領域、観点）	★単元末テスト実施時期（目安）
Lesson1 現在形	12	自己紹介を含め、会話の基本や現在形、be 動詞を使った簡単なやりとりができる。また、好きな教科などについて、一般動詞や過去形、現在進行形、過去進行形を使いながら相手に情報を伝えることができる。パフォーマンステストとして、英検二次面接を意識し、インタビューテストも実施する。（やりとり、②）	★6月下旬
Lesson2 過去形、現在進行形、過去進行形			
Lesson3 未来表現、基本時制	14	週末の予定などについて、未来表現を用いて開いてに英語で話して伝えることができる。自分の好きな絵などについて、発表できるようになる。レストランで注文する時の表現や、日本の食文化について、現在完了形を用いて伝えることができるようになる。パフォーマンステストとして、自分の好きな絵や食文化などについて英語で発表する。（発表、①）	★9月下旬
Lesson4 現在完了形、現在完了進行形			
Lesson5 助動詞、受動態	20	助動詞を用いながら道案内をしたり、場所を詳しく説明する表現を身につけている。また、地域の特徴やマスコットキャラクターについて、受動態を用いながら原因や理由を説明した後に結果を述べたりすることができるようになる。	★11月下旬
Lesson6 不定詞			

Lesson7 動名詞、分詞	18	車椅子競技について、分詞による修飾文を使いこなしながら説明できるようになる。																									
Lesson8 比較		紙の本と、電子書籍それぞれのメリット・デメリットなどについて比較し、英語で伝えたりすることができる。また、相手の意見を聞き、再度自分の意見を主張することができる。パフォーマンステストとして、紙の本 vs 電子書籍などのテーマについて比較しながら自分の意見を英語で書く試験を実施する。（書くこと、②）★1月下旬																									
Lesson9 関係代名詞	6	病院での医者と患者の会話を例に、関係詞を用いながら英語で症状を伝えたり聞いたりすることができるようになる。																									
Lesson10 関係副詞、仮定法		仮定法を用いて、自分が描く夢の国や世界などについて英語で話して伝えることができるようになる。パフォーマンステストとして、それらを英語で発表する。（発表、③）★2月下旬																									
総予定時間数	70	（全体を通して）パフォーマンステストの内訳： 年間の各領域・各観点のパフォーマンステストによる評価回数は以下を目安として、通年でバランス良く評価できるよう取り組む。また、各単元末に文法小テストを実施し、知識・技能を評価するがその回数は以下の表には反映させていない。 <table><tr><td></td><td>やりとり</td><td>発表</td><td>書くこと</td><td>合計（回）</td></tr><tr><td>知識・技能</td><td></td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>思考判断表現</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>主体</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>合計（回）</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td></td></tr></table>		やりとり	発表	書くこと	合計（回）	知識・技能		1		1	思考判断表現	1		1	2	主体	1	1		2	合計（回）	2	2	1	
	やりとり	発表	書くこと	合計（回）																							
知識・技能		1		1																							
思考判断表現	1		1	2																							
主体	1	1		2																							
合計（回）	2	2	1																								

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	英語	年次	2年次
講座名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位
授業形式・概要等	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養います。		
到達目標	1年次での英語コミュニケーションⅠの学修を踏まえ、必要に応じて一定の支援を活用しながら情報や考えを的確に理解したり伝えたりする力を身につけます。高校卒業までに目指したい英検2級取得に向け、英検も積極的に受検します。		
使用教材	・教科書：MY WAY English Communication Ⅱ（三省堂） ・クラウン チャンクで英単語 Standard 第2版 ・毎時間クラスルーム上で配布するワークシートを使用します。クロムブックを必ず用意すること。 ・必ず英語コミュニケーションⅡ専用のノートを1冊用意してください。		
学習のアドバイス 注意事項等	・「理解→内在化→発信」の順で学習を進めます。そのためには、音読が非常に重要です。音読を通して内容を理解します(理解)。何度も本文や例文を音読し、頭の中に英語を取り込みます(内在化)。そして、習った表現や語彙を用いて実際のコミュニケーションの場で応用します(発信)。 ・週に1回程度、英単語テストを行います。英語が使えるようになるためには、英単語の意味を覚えるだけではなく、その単語の使い方が重要です。その単語を含むかたまりの句(チャンク)を何度も練習し、実際のコミュニケーションの場で使える力を身につけます。 ・考査がないため、レッスンの終わりごとに各観点に応じたパフォーマンステスト等が多くあります。1年間かけて「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと(発表)」「話すこと(やりとり)」の5領域をバランス良く評価していきます。 ・ペアやグループの活動が非常に多くなります。間違っても良いので、協力して積極的に参加することが大切です。 ・本文や例文を大量に何度も音読する習慣をつけましょう。日本語の文を見て、何も見ずに英文に直せるようになるまで続けることが理想的です。各レッスンのページには、音声が開けるQRコードが付いています。正しい音で発音出来るようになるために、必ず活用してください。 ・<u>毎時間、クロムブックを使いながら授業を受けてもらいます。しかしながら、授業と関係のない作業をしたり、動画鑑賞をしている生徒が毎年散見されます。発見次第、相応の措置を取りますので注意してください。</u>		
クラスコード	2年A組：i7tiammy 2年B組：2ckebsvz		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、話された文等を聞き、その内容を捉える技能を身に付けている。	・パフォーマンス評価（インタビュー、プレゼンテーション、ペーパーテスト、英作文等）による。
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。	・パフォーマンス評価（インタビュー、プレゼンテーション、ペーパーテスト、英作文等）による。
③主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。	・ペアワーク、グループワーク等の取り組み状況、単語テストへの取り組み状況、音読テストへの取り組み状況等を中心的に評価する。

学習計画 W（書くこと）R（読むこと）L（聞くこと）I（やりとり）P（発表）

※横の番号は表面、評価の観点①～③に対応する。★は単元末テスト実施時期を表すが、あくまで目安であり予定よりも前後する。

学習内容（単元名）	時数	評価の規準と観点
Lesson 1 Dances Around the World	10	(I) 海外からの友人に紹介したい日本の踊りについて、多様な語句や文を用いて、考えを詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。② ★ 5月下旬

Lesson 2 Katsura Sunshine	15	(L) 海外からの旅行者に紹介したい日本文化について、対話の概要や要点、話の展開を、ワークシートを参考にしながら主体的に聞き取って捉えようとしている。③ ★6月下旬
Lesson 3 Living with Nature	15	(R) 滝田明日香さんが行う野生動物の保護活動について理解を深めるために、滝田明日香さんの講演のスク립トを読んで、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしていたり、概要や要点、詳細を捉えようとしている。① ★8月下旬
Lesson 4 Sesame Street	15	(P) セサミストリートを見たことがない子どもに紹介したいキャラクターについて、話して伝えるために必要となる、SVOC(V=知覚動詞)やhelp+0+動詞の原形を理解している。また、その特徴的な行動や子どもたちへの影響などを、詳しく話して伝える技能を身に付けている。① ★9月下旬 (W) 多様性を感じるときについて、読んで得られた情報などを活用しながら、理由や根拠とともに詳しく書いて伝えている。② ★9月下旬
Lesson 5 From Landmines to Herbs	15	(I) 参加してみたい国際ボランティア活動について、多様な語句や文を用いて、主体的に考えを詳しく話して伝えたり相手からの質問に答えようとしていたりしている。③ ★10月下旬
Lesson 6 Murals- The Power of Pubic Art	15	(L) 対話を聞き取るために必要となる、描写する表現の果たす役割を理解している。創立記念行事で校舎の外壁に描きたい絵について、対話を聞き取る技能を身に付けている。① ★11月下旬
Lesson 7 “Englishes” in the World	15	(I) 楽しみながらできる英語の学習方法について、多様な語句や文を用いて、考えを詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。② ★冬期休業前に実施
Lesson 8 Deepika Kurup	15	(W) 大変でも毎日やり遂げたいことについて、読んで得られた情報などを活用しながら、理由や根拠とともに詳しく書いて伝えている。② ★1月下旬
Lesson 9 The World’ s Poorest President	15	(R) 文章を読み取るために必要となる、同格のthat節、強調構文、倒置、省略を用いた文構造について理解している。ホセ・ムヒカさんの幸せに対する考え方について書かれた記事を、読み取る技能を身に付けている。① ★2月下旬
Lesson10 Living in an E-Society	10	(P)e スポーツや電子書籍の長所と短所について発表するために、議論の中の発言や自分の意見などを、グループで議論した内容を基に詳しく話して伝えている。③ ★年度末
総予定時間数	140	・各単元末では、Can-Do リストが達成出来ているかどうかの観点からもパフォーマンステスト等を実施、評価します。この機会に英語でのコミュニケーションを図るための基礎力をつけられるように、日々の授業で積極的な英語の使用が求められます。

上記年間学習計画のとおり、各領域・各観点のパフォーマンステストによる評価回数は以下を目安として、通年でバランス良く評価できるよう努めるものとする。

	L	R	I	P	W	合計（回）
① 知識・技能	1	2	0	1	0	4
② 思考判断表現	0	0	2	0	2	4
③ 主学態	1	0	1	1	0	3
合計（回）	2	2	3	2	2	11

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	英語	年次	3年次
講座名	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4単位
授業形式・概要等	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養います。		
到達目標	1、2年次での学修を踏まえ、支援をほとんど活用しなくとも情報や考えを的確に理解したり伝えたりする力を身につけます。高校卒業までに英検2級程度に合格できる総合的な力を身につけます。		
使用教材	教科書：MY WAY English Communication Ⅲ（三省堂） クラウン チャンクで英単語 Standard 第2版 …2年次で使用したものを継続 （A4バインダーファイルがあると良い。）		
学習のアドバイス 注意事項等	・「理解→内在化→発信」の順で学習を進めます。そのためには、音読が非常に重要です。音読を通して内容を理解します(理解)。何度も本文や例文を音読し、頭の中に英語を取り込みます(内在化)。そして、習った表現や語彙を用いて実際のコミュニケーションの場で応用します(発信)。 ・夏休み前までは週に1回程度、英単語テストを行います。英語が使えるようになるためには、英単語の意味を覚えるだけではなく、その単語の使い方が重要です。その単語を含むかたまりの句(チャンク)を何度も練習し、実際のコミュニケーションの場で使える力を身につけます。 ・考査がないため、レッスンの終わりごとに各観点に応じたパフォーマンステスト等が多くあります。1年間かけて「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと(発表)」「話すこと(やりとり)」の5領域をバランス良く評価していきます。 ・ペアやグループの活動が非常に多くなります。間違っても良いので、協力して積極的に参加することが大切です。 ・本文や例文を大量に何度も音読する習慣をつけましょう。日本語の文を見て、何も見ずに英文に直せるようになるまで続けることが理想的です。各レッスンのページには、音声が開けるQRコードが付いています。正しい音で発音出来るようになるために、必ず活用してください。		
クラスコード	1A tvymizcp	1B r6k3beji	

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、話された文等を聞き、その内容を捉える技能を身に付けている。	・小テスト（単語テスト、教科書内での単語・文法・会話表現等の確認テスト、音読テスト等）による。
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。	・パフォーマンス評価（インタビュー、プレゼンテーション、ディベート、英作文等）による。
③主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。	・ペアワーク、グループワーク等の取り組み状況、単語テストへの取り組み状況、振り返りシートの提出状況等による。

学習計画

W（書くこと）R（読むこと）L（聞くこと）I（やりとり）P（発表）
 ※横の番号は表面、評価の観点①～③に対応する。★は単元末テスト実施時期を表すが、あくまで目安であり予定より前後する。

学習内容（単元名）	時数	評価の規準と観点
Unit1-1 ～1-4 1-5 ～1-8	30	(R)Unit1-1～1-4, Unit1-5～1-8 まで読んで学習したことについて、まとまった文章を読み、主体的に必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている ③ ★5月下旬に Unit 1-1～Unit1-4, 6月下旬に Unit 1-5～Unit 1-8
Unit 2-1 (Lesson1) Priceless Café Priceless Community	10	(W) 情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えるために必要となる、自分の意見を述べる表現や説明する表現を理解している。値段が設定されていないのを買うことの利点・欠点について、情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けて

		いる。① (I) 値段が設定されていないのを買うことの利点・欠点について理解を深めるために、値段が設定されていないのを買うことの利点・欠点について、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合っている。② ★夏季休業前に実施
Unit 2-2(Lesson2) Nihonium- A new element Born in Japan	10	(L) シャボン玉を使った実験について理解を深めるために、 シャボン玉を使った実験についての対話を聞いて、主体的に必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えようとしている。③ ★夏季休業前に実施 ★9月下旬
Unit 2-3(Lesson3) Tea in the desert Climate	15	(R) 中東やアフリカでお茶が多く飲まれる理由について理解を深めるために、 お茶の消費量が多い国についての講義のスクリプトを読んで、必要な情報を読み取り、主体的に文章の展開や書き手の意図を捉えようとしている。③ ★10月下旬
Unit 2-4(Lesson4) The Benefits of Origami	15	(P) 情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えるために必要となる、自分の考えを述べる表現や説明する表現を理解している。自分が好きなスポーツや趣味がもたらす効果について、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝える技能を身に付けている。① ★11月下旬 (W) 自分が好きなスポーツや趣味がもたらす効果について理解を深めるために、自分が好きなスポーツや趣味がもたらす効果について、読んで得られた情報などを活用しながら、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えている。② ★11月下旬
Unit 2-5(Lesson5) The Mysteries of English spelling	10	(I) 英語のつづりの特徴について理解を深めるために、 英語のつづりや新しい表記について、多様な語句や文を用いて、主体的に情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合おうとしている。③ ★冬期休業前に実施
Unit 2-6 (Lesson6) New Discovery in the Nasca Lines	10	(L) 対話を聞き取るために必要となる語句や表現を理解している。また、ナスカ文化展について、対話を聞き取る技能を身に付けている。① ★1月下旬 (P) 日常生活でAIに期待することについて理解を深めるために、日常生活でAIに期待することについて、主体的に情報や考えを論理的に詳しく話して伝えようとしている。③ ★1月下旬
Unit 2-7 (Lesson7) Today's Trash is Tomorrow's Treasure	10	(R) アイサト・シーセイさんのアップサイクル活動について理解を深めるために、アイサト・シーセイさんのアップサイクル活動についてのインターネット記事を読んで、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えている。② ★時期と授業進度状況によって実施の有無を検討 (I) 情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うために必要となる、描写する表現や説明する表現を理解している。また、どのようなアップサイクル製品に興味があるかについて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合う技能を身に付けている。① ★時期と授業進度状況によって実施の有無を検討
Unit 3-1 (Lesson8) Nap Time at school	10	(L) 効果的な昼寝の方法について理解を深めるために、効果的な昼寝の方法についての対話を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えている。②
Unit 3-2 (Lesson9) Dog Tax	10	(R) 効果的な昼寝の方法について理解を深めるために、効果的な昼寝の方法についての対話を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えている。① (W) 犬税を導入することの是非について理解を深めるために、犬税を導入することの是非について、読んで得られた情報などを活用しながら、主体的に情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えようとしている。③
Unit 3-3 (Lesson10) Space Development	10	(P) 宇宙に関する話題について理解を深めるために、宇宙に関する話題について、情報や考えを論理的に詳しく話して伝えている。②
総予定時間数	140	・各単元末では、Can-Do リストが達成出来ているかどうかの観点からもパフォーマンステスト等を実施、評価します。この機会に英語でのコミュニケーションを図るための基礎力をつけられるように、日々の授業で積極的な英語の使用が求められます。

上記年間学習計画にあるとおり、各領域・各観点のパフォーマンステストによる評価回数は以下を目安として、通年でバランス良く評価できるよう取り組む。

	L	R	I	P	W	合計 (回)
①知識・技能	2	1	1	1	1	6
②思考判断表現	0	2	1	2	1	6
③主学態	1	1	1	1	2	6

合計（回）	3	4	3	4	4	
-------	---	---	---	---	---	--

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	英語	年次	3年次
講座名	論理・表現Ⅱ	単位数	2単位
授業形式・概要等	論理・表現Ⅰでの学修を踏まえ、受験対策としての効果も得られるように進めていきます。基礎・応用を含む英文法の修得を目指しつつ、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の3つの領域を中心とした言語活動等も行います。多量の英語をインプットしてから、発信するという意識を授業に取り組みましょう。		
到達目標	3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした発信能力を強化し、特に論理的に表現する能力を養います。また、受験で使える英語力の修得も目指します。		
使用教材	教科書：MY WAY Logic and Expression Ⅱ（三省堂） 副教材：MY WAY Logic and Expression Ⅱ WORKBOOK		
学習のアドバイス 注意事項等	・英語学習は音読が基本になります。教科書で扱うキーセンテンスの音読を繰り返し、音読できたら書いてください。その繰り返しで、英語の内在化に繋がります。内在化については、英語コミュニケーションⅢのシラバスを参照してください。 ・ペアやグループでの活動が多くなります。間違っても良いので、協力して積極的に参加することが大切です。 ・「習った英語をどう活かすか」という観点から、指定されるテーマに沿って課題に取り組む場面もあります。間違いを恐れて何も話さなかったり、書かなかったりすると、評価のしようがありません。 ・とにかく「英語の音」に慣れましょう。そのためには音声聞くことが必須です。教科書には音声を再生できるQRコードが付いていますので、自宅等でも音声を日常的に聞くよう心がけてください。 ・進学で英語を必要とする人は特に気を引き締めて履修・修得してください。多くの模試や入試で問われる文法知識や読解に必要なスキルを教えます。		
クラスコード	2gstsroh		

評価について

観点	規準	方法
①知識・技能	英語やその運用についての知識を身につけるとともに、背景にある文化などを理解している。	・小テスト（毎単元末に実施する文法理解テスト、動詞の活用表試験等による）
②思考・判断・表現	英語で話したり書いたりし、情報や考えなどを適切に伝えている。 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	・パフォーマンス評価（適宜実施するインタビュー、プレゼンテーション、ライティング等による）
③主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動や課題に取り組んでいる。	・ペアワーク、グループワーク等の取り組み、単語テストへの取り組み、振り返りシートの提出状況等による。

学習内容（単元名）	時数	主に発信2技能3領域に焦点を当てたときの学習と評価のポイント（観点）
Lesson1 現在完了形、過去完了形 未来表現	12	【話すこと [やり取り]】 これまでの経験について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うことができる。
Lesson2 助動詞、be to 不定詞		【書くこと】● 自分の好きな場所について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、詳しく書くことができる。③ ★6月下旬
Lesson3 受動態、不定詞Ⅰ	14	【話すこと [やり取り]】● 週末の予定について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うことができる。② ★9月下旬
Lesson4 不定詞Ⅱ、原形不定詞		【話すこと [やり取り]】 道順について、多様な語句や文を用いて、情報を即興で詳しく伝え合うことができる。

		【話すこと [発表]】 最新のものについて、多様な語句や文を用いて、情報を整理し、詳しく話して紹介することができる。																									
Lesson5 動名詞、分詞構文、 付帯状況の with		【話すこと [やり取り]】 印象深かった授業について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うことができる。																									
Lesson6 比較基礎、比較応用	20	【話すこと [やり取り]】 ● 世界の国々の特徴について、多様な語句や文を用いて、情報を整理し、詳しく伝え合うことができる。③ ★ 1 1 月下旬 【書くこと】 世界の国々の特徴について、多様な語句や文を用いて、情報を整理し、詳しく伝え合うことができる。																									
Lesson7 関係詞		【話すこと [やり取り]】 火星について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うことができる。																									
Lesson8 仮定法基礎、仮定法応用	18	【話すこと [やり取り]】 「無人島で5日間生き残るために何を持っていく？」というテーマについて、自分の意見や主張を、多様な語句や文を用いて、理由とともに詳しく話して伝え合うことができる。 【話すこと [発表]】 ● 「もし〇〇がなかったら」というタイトルで、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書いて伝えることができる。① ★ 1 月下旬																									
Lesson9 否定、代名詞		【書くこと】 日常的な話題（人生で一度はペットを飼うべきだ）や社会的な話題（高校生は英語以外にも外国語を学ぶべきである）について、賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができる。②																									
Lesson10 無生物主語、その他	6																										
総予定時間数	70	（全体を通して）パフォーマンステストの内訳： 上記黒丸●が付してある領域について、2 単元ごとを目安にパフォーマンステストを実施することによって評価する。評価基準の横の番号はシラバス 1 ページ目の評価の観点①～③に一致する。 年間の各領域・各観点のパフォーマンステストによる評価回数は以下を目安として、通年でバランス良く評価できるよう取り組む。また、各単元末に文法小テストを実施し、知識・技能を評価するがその回数は以下の表には反映させていない。 <table><tr><td></td><td>やりとり</td><td>発表</td><td>書くこと</td><td>合計（回）</td></tr><tr><td>知識・技能</td><td></td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>思考判断表現</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>主体</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>合計（回）</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td></td></tr></table>		やりとり	発表	書くこと	合計（回）	知識・技能		1		1	思考判断表現	1		1	2	主体	1		1	2	合計（回）	2	1	2	
	やりとり	発表	書くこと	合計（回）																							
知識・技能		1		1																							
思考判断表現	1		1	2																							
主体	1		1	2																							
合計（回）	2	1	2																								